



修正会の模様（平成27年1月1日、改修前の順慶寺本堂にて）

◆◆ 修正会 ◆◆

順慶寺では、毎年、大晦日から元旦にかけて修正会が勤められる。本堂では、お勤めをして、住職、責役の年頭所感、護寺会会長の挨拶があり、その後、お屠蘇とお汁粉が振る舞われる。例年、順慶寺で年越しすることを恒例とされる方々が多く集う。

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2020年(令和2年)

1月号

VOL.315

◇ 冥土の一里塚 ◇

新年あけましておめでとうございます。

今年も、寺報ではお釈迦様のお言葉を大切に頂いていきたいと思えます。今年もよろしくお願ひいたします。

新年最初に選んだのは、釈尊の『ダンマパダ』（法句経）から、

「人間に生まれることは得難く

死すべき命を生きるのは難しい。

正しい教えを聴く機会は稀で

ブツダが出現されることも稀である」

というお言葉です。

新年早々、死すべき命のことを出すのは縁起でもないご批判もあるかと思えます。やはり、新年は改まった心で迎えたいものです。

ただ、私たちはみな、やがて死すべき身であり、一年一年それが現実となってくる。死すべき時に道を見出せず、やがて惑い苦しみの中で終末に至ることを思うと、少しでも早く正しい教えを聴き、苦しみから離れる道を見出したいと思うのは当たり前でしょう。こ



今月のブツダの言葉

人間に生まれることは得難く
死すべき命を生きるのは難しい



のまま教えを聴かずに迷うことは、堪えきれないものだと思います。

室町時代、乱世の中で生き抜く中で、かの①一休さんは、正月から骸骨のついた杖で天をつきながら、街を練り歩いたのは有名な話。多くの人の響（ひび）きを受けながら、やがて死に行く身に、さらに欲を重ねて苦を生みだすのは酷だと知る、禅僧・一休さんにとって、それに堪えきれず、批判覚悟で行動したのでした。そんな一休さんが正月に詠んだのが、

正月は

冥土の旅の 一里塚

若院のテーマカット NO.10



めでたくもあり
めでたくもなし
やはり、一休さんの言われるように、新年から、一つ歳を重ねることへの重みを噛みしめることが必要だと思えます。

◇心からの安らかさ◇

一休さんは、八十七歳の高齢でマリアに罹り、京都府田辺市の酬恩庵で亡くなりましたが、臨終に際し「死にとうない」と述べたとされています。事実、私たちの身は、臨終のひと息まで生きようとしています。どんな高僧でも、もう少し生きたい、しかもできることならば幸せに生きたいと思うのが本音です。

一方、江戸期の^②小林一茶は、めでたさも
ちう位也 おらが春

①【二休宗純】

明徳五年(一一三九四)一月一日生まれの臨濟僧。後小松天皇の皇子。六歳で京都府安国寺にはいり、二十七歳のとき華叟宗曇から印可をうける。各地の庵を転々とし、当時の世俗化、形式化した禅に反抗して、奇行、風狂の中に生きる。文明六年勅命によって大徳寺住持となり大徳寺の復興につくした。

②【小林一茶】

宝暦十三年五月五日生まれの俳人名は信之。通称は弥太郎。十五歳で信濃から江戸にて流浪。二六庵竹阿に師事。三十九歳で父と死別、継母らと遺産をあらそう。幼時から逆境にあり、俗語や方言まじりの生活感情に根ざす俳句をおくのこした。六十五歳没。

詩歌・書画にすぐれた。八七歳没。

と、新年に一句詠みました。
一茶の生涯は、不遇を窮めます。継母との不仲から十五歳で家を出て、その後、父親が残した財産問題で継母と弟との間に確執ができました。五十歳を越えて、ようやく結婚した妻との間にできた四人の子供と死別し、妻にも先立たれ、最後には大火で家も失ってしまいました。俳句を詠むことで、生計は安定しましたが、一茶にとって、新年も中ぐらいのめでたさだったようです。
そんな中、一茶は、真宗の教えを受け、お念仏に身を任せ、阿弥陀様に浄土への道を照らされて生きることに安んじていました。そして、ある年の暮れに詠んだの
ともかくも
あなた任せの としの暮
何かしら安らかさを感じます。

人を欲ぶ人
妙好人の世界
[第89回]
《ありのままに》
さぬきしょうまつ
讃岐の庄松
(13)

《あにき覚悟はよいか》

妙好人・庄松のありのまま。これぞというエピソードを上げるとすれば、やはり、帰敬式のことを上げる人が多いはず。

帰敬式は、仏を心のよりどころとし、仏の教えを人生の指針と仰ぎ、仏の教えのもとに集まった集まりを大切に誓いを立て、仏法僧に三帰依する儀式。その際にお剃刀を三回頭にあてて、剃髪の儀礼をするので、「おかみそり」とも言います。その後、帰依した証として、釈の字を付けた法名をいただきます。

昔から真宗各派の本山では、帰敬式が実施されており、庄松も、五・六人の同行とともに、帰敬式を受式するために、本山(興正寺)に上がるようになりました。

帰敬式では、帰敬式を受ける際に、本山勤めの僧侶から様々なことからの説明を受けますが、お剃

刀をあてるのは、ご門主直々、またはご門主に準じた方がなさるのが通例。御門徒にとって、大変緊張する儀式です。

庄松と同行は、御影堂で親鸞聖人の御真影の前に端座して、その時を待ちました。シーンと張り詰めた空気の中で、ご門主がお越しになられ、一同合掌。静かに目を閉じ、辺りにはご門主とおつぎの方の衣の羽音だけがする緊張のとき。いよいよ、庄松の頭にご門主のお剃刀が当てられました。三度のお剃刀を頂いて、深々を頭を下

げた庄松は、おもむろに頭をあげ、ご門主の緋の衣を挿んだと思うと、「あにき、覚悟はよいか」とひと言。その低い声は、静寂の本堂に響きわたりました(続)。



庄松帰敬式の掛け軸 (小砂説教所にて)

子と共に

バカじゃなのいの!



冷蔵庫の片隅に、シワだらけの小さなメモが貼ってあります。そこには、
「お母さん、バカじゃないの!」
と、娘の文字で走り書きがしてあります。そのメモに何故かお父さんの似顔絵。ずい分前のことなので、どうしてこんなメモがあるのか、その経緯は全く忘れてしまいましたが、娘と何らかのいきかきがあり、その時の痕跡だと思います。

ただ、そんな娘の走り書きがどうしても捨てることができないうのは、どこかに引っかかりがあるからなのです。
「お母さん、大丈夫?」
という娘からの問いかけか、あるいは自分自身の戒めか。答えははっきりしません。

こうして、冷蔵庫のメモは、今年も捨てられず一年が過ぎました。

佳帆子

いよいよ年明けからは受験生!



護学会バス旅行(7月11日、バス二台78名参加、本山ほかを巡拝)



タケノコ掘りと花祭り(4月13日)



名大准教授・上出寛子先生(10月20日、公開講座)



御遠忌円成慰労会(2月2日、藤田屋にて)



五十回忌の方にお骨をわたす(9月12日、祠堂法要)



総代OBの境内ハス手入れ(2月)



鹿兒島・鶴丸城御楼門視察(8月19日)



初講義される福田琢先生(4月18日、真宗講座)



名古屋市の塚本夫妻によって寄進された輪灯搬入(3月)

◆ 駐車場の一部補修— 先の台風十九号の影響で破損した庫裏のガレージを護学会加入の火災保険にて補修完了。

◆ 庫裏火災保険を更新— 護学会加入の火災保険は、本山幹旋分と仏教会幹旋分がある。そのうち、仏教会幹旋分の庫裏火災保険が、十二月に更新された。

◆ むつみ会で報恩講演— 責役の相木国男氏によって撮影され、YouTubeにアップされた当山報恩講の動画を、本堂の大型スクリーンを使い、むつみ会で試写。

編集部短信

令和二年四月より、当山若院(住職夫妻の長男)が名古屋の同朋大学で仏教の勉強をすることとし、順慶寺では一部の法務を手伝うことになりました。

三月までは、理工学部に所属していた関係で、仏教のことは全く

四月より 若院法務手伝い開始

これから、多くのことを経験し、皆様からご縁を多く頂くことになると思います。どうか、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

編集雑記

本堂では、もともと映画を大スクリーンと大音量で上映できるようになっていましたが、今年から、アマゾンなどから配信される動画にも対応できるようにしました。

その副産物でしょうか、インターネットにある動画を見ることができるようになり、このほど、相木国男さんの撮影された動画を見ることができ、初めて自坊の報恩講の記録を見ることになりました。

動画をみて、自身のダメなところばかりが目につき、大いに反省することができました。

12月度護学会物語者
精思院釋尼妙季
12月5日寂岡川スエノ(94)
泉田西組岡川経康様の母

順水院釋尼千覚
12月19日寂岡本千代(101)
知立市岡本克彦様の母



1月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	水	修正会(大晦日23:45~、順慶寺)	
2	木		
3	金		
4	土		
5	日		
6	月		
7	火		
8	水		
9	木	順和会ゴルフコンペ(貞宝CC)	木-1
10	金		
11	土		
12	日		
13	月	今川西組お取越① 成人の日	
14	火	今川西組お取越②	
15	水	今川東組お取越	
16	木		木-2
17	金	山ノ端組お取越	
18	土		
19	日		
20	月		
21	火		
22	水		
23	木		木-3
24	金		
25	土		
26	日		
27	月		
28	火	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺)	
29	水		
30	木		木-4
31	金	下高根・荒井地区お取越	

1月行事内容 詳細

修正会(年越し勤行)

12月31日深夜〜元旦

大晦日23時45分〜25時 順慶寺

今年も大晦日から元旦にかけて、年越し勤行を実施します。大晦日23時45分より本堂でお勤め、同時に除夜の鐘を打撞します。正信偈のお勤めをして、御本尊様の前で新年を迎える由緒正しき行事です。今年からは、新年に備えて、23時30分に山門の開門をする予定です。

本堂でお勤めをされた方にお屠蘇、お汁粉の接待、新年のお土産があります。除夜の鐘は、お越し下さった皆様、全員撞くことができます。是非、ご家族お揃いで、順慶寺にお参りください。

順和会ゴルフコンペ

1月9日(木) 貞宝CC

午前7時15分 順慶寺集合

昨年からの復活した順慶寺有志による、ゴルフコンペが開催されます。このコンペは、順慶寺護国寺、または、関係者ならばどなたでも参加できます。本年の募集は切まりましたが、興味のある方は順慶寺までお尋ね下さい。

おしらせ

●正月三日の本堂参詣について

正月三ヶ日(一月一日〜三日)、本堂の開扉時間は、午前七時〜午後六時までとします。その間、本堂内陣の照明、外陣の照明(弱い灯り)は点灯させておきますので、是非、ご家族そろって御本尊様にご参詣ください。ただし、本堂内の空調は停止させてあります。大変寒い中ではありますが、御了承ください。

じゅんこのときめき歳時記

お年玉

いよいよ令和元年も終わり、新しい年が始まりますね。

昔は、正月を迎える前に、大掃除をして、家の中を綺麗に清めてから、新年を迎えたそうですが、私は大掃除がなかなかできません。

お寺では、除夜の鐘について、本堂でお勤めをしながら新年を迎えます。お勤めが終わってお参りの人が帰られると、お祖父ちゃんが改まって、「新年明けましておめでとう」と言いながら、お年玉をくれます。何だかその雰囲気がかしくて、いつも吹き出しそうに

なります。

お年玉は、昔は、お餅で作った玉だったそうです。お餅は、生きる力や気力をくれるものだそうですが、やはりお金の方がいいです。

お年玉

計算できる とうりになり

塩川キヨミ

